

2021年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年1月14日

上場会社名 株式会社メディアドゥ 上場取引所 東
 コード番号 3678 URL https://www.mediado.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 藤田 恭嗣
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CAO (氏名) 鈴木 克征 TEL 03-6212-5113
 四半期報告書提出予定日 2021年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満切り捨て)

1. 2021年2月期第3四半期の連結業績（2020年3月1日～2020年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	62,007	29.3	2,151	57.6	2,198	76.8	1,264	42.4
2020年2月期第3四半期	47,967	32.6	1,365	42.4	1,243	31.7	888	—

(注) 包括利益 2021年2月期第3四半期 1,094百万円 (43.3%) 2020年2月期第3四半期 764百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	88.04	86.24
2020年2月期第3四半期	65.59	61.11

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第3四半期	38,568	8,532	22.1
2020年2月期	34,062	5,838	17.0

(参考) 自己資本 2021年2月期第3四半期 8,508百万円 2020年2月期 5,791百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	0.00	—	13.00	13.00
2021年2月期	—	0.00	—	—	—
2021年2月期（予想）	—	—	—	20.50	20.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年2月期の連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	85,000	29.1	2,800	51.0	2,800	58.9	1,500	69.5	102.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 一社（社名） 、除外 1社（社名）株式会社メディアドゥ（吸収合併により消滅）

（注）詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期3Q	14,851,900株	2020年2月期	14,175,100株
② 期末自己株式数	2021年2月期3Q	2,729株	2020年2月期	1,836株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期3Q	14,366,409株	2020年2月期3Q	13,543,223株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績等の見通しに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2021年1月18日に機関投資家及びアナリスト向け決算説明会を開催します。説明会資料は、説明会終了後T D n e tにて開示予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは著作物を公正利用のもと、出来るだけ広く頒布し著作者に収益を還元するという「著作物の健全なる創造サイクルの実現」をミッション、「ひとつでも多くのコンテンツを、ひとりでも多くの人へ」をビジョンに掲げ、日本における文化の発展及び豊かな社会づくりに貢献するため、積極的な業容の拡大と企業価値の向上に取り組んでおります。

日本国著作権法第一章 総則の第一条にある『著作物は文化の発展に寄与』、『著作物の利用と保護の調和』を第一義に、デジタル化された数多くの著作物をより多くの人に届け、その利用における適正な対価を著作者に還元し、また新たな著作物が創造されるよう“著作物の健全なる創造サイクル”の一翼を担うことを目的に事業を行っております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、当社グループの主力事業領域である電子書籍流通事業において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、在宅勤務や外出自粛に伴って可処分時間が増加していることから、「巣ごもり消費」としての娯楽需要の増加傾向が継続しております。加えて、紙書籍から電子書籍への移行についても不可逆的な流れとして進展しております。こうしたことから電子書籍市場の拡大が想定を上回って推移したことで、売上・利益ともに増収増益となりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は62,007百万円(前年同期比29.3%増)、営業利益は2,151百万円(前年同期比57.6%増)、経常利益は2,198百万円(前年同期比76.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,264百万円(前年同期比42.4%増)となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間のセグメント別の業績は次のとおりであります。

(電子書籍流通事業)

電子書籍流通事業につきましては、電子書籍市場のDX(デジタルトランスフォーメーション)推進を支援する「Legacyを作る」と、ブロックチェーン技術を用いた新市場創出を目的とする「Legacyを創りに行く」の2つの事業方針を掲げております。

「Legacyを作る」においては、引き続き「LINEマンガ」「Amazon Kindle」などの電子書店へのディストリビューションや電子書籍配信ソリューションの提供を行いました。2020年11月末時点で、取引先としての出版社は2,200社以上、電子書店は150店以上、取扱稼働コンテンツ数は200万点以上、出版社や電子書店とのキャンペーンは1万件以上展開しており、当社グループは国内最大の電子書籍取次事業者として出版業界の発展に貢献しております。

当社はWith/Afterコロナ社会やSociety5.0といった社会構造変化・新たな潮流を見据え、電子書籍流通を支えるインフラとしての役割を務めながら業界のDX推進を支援することで、上述の「巣ごもり消費」による電子書籍市場拡大に貢献いたしました。

2020年10月には、デジタルコンテンツ流通におけるバリューチェーンの相互補完を図り、多様化するユーザーに最適なコンテンツを届ける新たなプラットフォームの提供やビジネス開発を推進すべく、マンガアプリ等の開発・保守・運営を行う㈱Nagisaを子会社化いたしました。当社グループ化により、同社が提供するマンガアプリにおける大手出版社の連載作品、人気作品、新刊といった取り扱いコンテンツの充実が実現するなどしております。また、今後の業務効率化に向けた新電子書籍取次システムへの移管・統合や、中小出版社のDX推進への貢献に向けて紙書籍と電子書籍、双方の出版を支える基盤を構築すべく「電子書籍の売上/印税」および「紙書籍の印税」を統合的に管理するSaaS型サービスの開発も㈱光和コンピューターと共同で引き続き進めております。加えて、当社グループの今後の電子書籍流通における一層のシェアと国際事業拡大を加速させるための施策にも取り組んでおります。

「Legacyを創りに行く」においては、電子書籍市場の更なる拡大を促すために、電子と紙の本それぞれの利点を生かした「安心・便利」を感じられる仕組みを提供すべく、ブロックチェーン技術を用いた新流通プラットフォームの実現に向けて研究開発を行いました。現在、電子書籍以外のマーケットへの対応も視野にパフォーマンス性能向上や5つのプロダクト開発を進行させており、社会実装に向けた動きを加速させております。

その結果、売上高は61,163百万円(前年同期比30.4%増)、セグメント利益は2,090百万円(前年同期比49.2%増)となりました。

(その他事業)

その他事業につきましては、収益拡大や成長促進に向けた積極的な投資を行いました。

ビジネス書の要約配信サービス「フライヤー」は、テレビCM等、プロモーションの継続実施や、法人会員獲得に注力しており、個人も含めた累計会員数は12月末現在で75万人となっております。そのほか、世界最大級のアニメ・マンガのコミュニティサイトである「MyAnimeList」を運営する㈱MyAnimeListにおいては、10月にスマートフォンアプリの開発が完了し、配信を開始しております。インプリント事業では新型コロナウイルスによる紙書籍流

通の停滞を受け、電子書籍を軸とした制作プロセスへの変更を行っております。いずれの事業も新型コロナウイルスによるトレンド変化、また中長期的な視座での持続的事業成長と価値創出を念頭に事業展開を進めております。

その結果、売上高は843百万円（前年同期比21.3%減）、セグメント損失は183百万円（前年同期はセグメント損失238百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、売上の増加に伴い運転資本が増加したことに加え、第三者割当による第18回新株予約権を通じた資金調達の一部実行により現金及び預金が増加したこと等により、前期末と比べ4,505百万円増加し、38,568百万円となりました。

負債合計は、有利子負債の減少がありましたが、売上の増加に伴い仕入原価が増加し、営業債務が増加したこと等により、前期末と比べ1,811百万円増加し、30,035百万円となりました。

純資産合計は、その他有価証券評価差額金の減少170百万円、利益剰余金の配当184百万円があった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益1,264百万円の計上により利益剰余金が増加したことに加え、第18回新株予約権の一部行使等により資本金及び資本剰余金がそれぞれ903百万円増加したこと等から、前期末と比べ2,694百万円増加し、8,532百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年10月13日の「通期連結業績予想の上方修正並びに配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」にて公表いたしました2021年2月期の通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,089	10,249
売掛金	16,022	17,952
その他	876	995
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	24,988	29,197
固定資産		
有形固定資産	341	297
無形固定資産		
のれん	5,416	5,065
ソフトウェア	261	290
ソフトウェア仮勘定	37	176
その他	61	59
無形固定資産合計	5,777	5,592
投資その他の資産		
投資有価証券	2,958	3,537
長期前払費用	4	1
繰延税金資産	166	64
差入保証金	322	320
その他	1	106
貸倒引当金	△497	△549
投資その他の資産合計	2,955	3,480
固定資産合計	9,073	9,370
資産合計	34,062	38,568

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,247	21,112
1年内返済予定の長期借入金	1,662	1,187
未払法人税等	519	638
賞与引当金	202	29
ポイント引当金	46	54
事業整理損失引当金	15	—
その他	701	1,202
流動負債合計	21,396	24,224
固定負債		
長期借入金	6,578	5,698
関係会社事業損失引当金	—	44
繰延税金負債	177	—
その他	72	68
固定負債合計	6,828	5,811
負債合計	28,224	30,035
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,899	2,803
資本剰余金	2,778	3,682
利益剰余金	665	1,745
自己株式	△0	△1
株主資本合計	5,342	8,229
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	443	273
為替換算調整勘定	5	4
その他の包括利益累計額合計	449	278
新株予約権	48	25
非支配株主持分	△1	△1
純資産合計	5,838	8,532
負債純資産合計	34,062	38,568

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
売上高	47,967	62,007
売上原価	43,020	56,137
売上総利益	4,946	5,869
販売費及び一般管理費	3,580	3,717
営業利益	1,365	2,151
営業外収益		
受取利息及び配当金	4	4
助成金収入	0	—
補助金収入	24	10
持分法による投資利益	10	30
投資事業組合運用益	—	7
貸倒引当金戻入額	—	24
その他	5	14
営業外収益合計	44	93
営業外費用		
支払利息	28	27
投資事業組合運用損	1	—
貸倒引当金繰入額	131	—
その他	5	18
営業外費用合計	167	46
経常利益	1,243	2,198
特別利益		
固定資産売却益	0	—
新株予約権戻入益	0	0
投資有価証券売却益	293	—
特別利益合計	294	0
特別損失		
固定資産除却損	2	0
投資有価証券評価損	—	27
事業譲渡損	32	—
貸倒引当金繰入額	—	76
関係会社事業損失引当金繰入額	—	44
特別損失合計	34	148
税金等調整前四半期純利益	1,503	2,050
法人税等	621	785
四半期純利益	881	1,265
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	888	1,264

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益	881	1,265
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△115	△170
為替換算調整勘定	△2	△0
その他の包括利益合計	△117	△170
四半期包括利益	764	1,094
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	770	1,094
非支配株主に係る四半期包括利益	△6	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、2020年11月16日付で、みずほ証券株式会社から第18回新株予約権の一部行使による払込みを受け、資本金及び資本剰余金がそれぞれ646百万円増加しております。その結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,803百万円、資本剰余金が3,682百万円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当社の連結子会社であった株式会社メディアドゥは2020年6月1日付で株式会社メディアドゥホールディングスを存続会社とする吸収合併により消滅したため、第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。また、同日付で、株式会社メディアドゥホールディングスは株式会社メディアドゥに商号変更しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当社及び一部の連結子会社において、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	電子書籍 流通事業	その他 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	46,896	1,070	47,966	0	47,967
セグメント間の内部売上高又は振替高	29	81	110	△110	—
計	46,925	1,151	48,077	△110	47,967
セグメント利益又は損失(△)	1,401	△238	1,162	203	1,365

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額203百万円には、当社における子会社からの収入1,056百万円及び全社費用△836百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に関する費用等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	電子書籍 流通事業	その他 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	61,163	843	62,007	0	62,007
セグメント間の内部売上高又は振替高	6	131	138	△138	—
計	61,170	975	62,145	△138	62,007
セグメント利益又は損失(△)	2,090	△183	1,907	244	2,151

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額244百万円には、当社における各報告セグメントからの収入1,266百万円及び全社費用△1,008百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に関する費用等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。